

問

ふるさと納税の今後の展開は

町長

一層高まるよう努める



きよしひと 議員
仁木 義人

秋の夜長はビールを
飲みながら映画を
楽しんでいます

現状と課題

問ふるさと納税を積極的に取り組むことで、今までできなかった事業や町民への各種サービスが充実し、返礼品による特産品のアピールが、町全体のPRにつながるかと考えられるが、現状と課題は。

答全国の令和2年度のふるさと納税額は約6725億円で前年比の1・4倍。課題は、地域の特産品によって受入額が影響することや、地方・団体間での返礼品競争化が依然として続いている。

返礼品とPR方法

問返礼品やPR方法のこれからの考えは。

答これまで、町の特産品やふるさと納税の基準に適合する商品について、事業者の方に声をかけて返礼品を増やしてきた。今年度からは、「お墓掃除サービス」など、「品物」だけではなく「コト」も返礼品に加えている。PRについては、一度訓子府町に寄付をされ、希望する方に「応援団だより」を利用して返礼品のPRをしており、今後も「応援団だより」などを通じて返礼品の魅力を伝えていきたい。

国の事業の活用

問「地域おこし協力隊クラウドファンディング」や「ふるさと移住交流促進プロジェクト」など、国の事業を活用する考えは。

答現時点では具体的な寄付先を指定するプロジェクトがないため、実施する予定はないが、必要に応じて制度の活用を検討していく。

今後の展開

問ふるさと納税の今後の展開や、使い道を拡充する考えは。

答経費の圧縮方法の検討を進めるほか、新たな返礼品の追加を図る方策を考えるなど、町の自主財源確保や返礼品出品事業者のメリツトが一層高まるよう努力する。また、引き続き条例に基づき、寄付者の思いに添った活用をしていく。



自治体間の返礼品競争も問題に

令和2年度
ふるさと納税の実績

◇寄付件数
町内から 2件
道内から 164件
道外から 2593件
合計 2759件
約3323万円
※過去最高額

◇利用実績
防犯カメラ設置、高齢者ハイヤー利用サービス、空き家活用定住対策補助金、子ども医療費助成事業など 2580万円

10メモ

クラウドファンディング

インターネットを介して自分の活動や夢を発信する人が、活動を応援したいと思ってくれる人から資金を募るしくみ。



こちらから仁木議員の一般質問を視聴できます